

2021年12月21日

ブラジル共産党 (PCdoB)

## チリでのボリック候補の勝利について

<https://pcdob.org.br/noticias/esquerda-derrota-neofascismo-na-eleicao-do-chile/>

From 山崎圭一 (後半の背景説明部分の抄訳)

### 左翼は前進しボルソナロらを追い詰めている

ボリックの当選は、アルゼンチンのアルベルト・フェルナンデス、ボリビアのルイス・アルセ、ペルーのペドロ・カスティジョなど、ラテンアメリカの他の左翼候補の勝利に続くものです。

12月10日と11日、ブエノスアイレスにいたとき、ブラジルのルイス・イナシオ・ルラ・ダ・シルバ前大統領 (PT) は、アルゼンチンの活動家と労働組合員に、ボリックの勝利を支持するよう求めました。

これらすべてが、ボルソナロらに対する南米大陸における巨大な反対の波を生み出します。

### 政治の二極化

チリ大統領選挙には、左派からガブリエル・ボリック候補、極右からホセ・アントニオ・カストが出馬しました。二人は政治的スペクトル (色合いの幅) の両極端を代表し、有権者の投票の奪い合いを繰り広げました。

左派は、2019年の反新自由主義の抗議運動をきっかけに台頭し、極右は抗議する人々に対して「法と秩序」を求める社会集団の支持を確保しました。

ボリックは、社会的および道徳的問題について進歩的な考え方を持っており、経済分野については、「ヨーロッパ型の福祉国家」を提唱しています。カスト

は新自由主義の経済モデルを支持し、中絶や同性結婚に反対するなど、社会問題について「超保守」的な見解を有しています。

社会主義者であるボリックはまた、年金（社会保障）、保健・公衆衛生、公教育など、今日最も貧しい人々に与えられていない社会権を保証する憲法改正を擁護しています。カストは、ピノチェット大統領派と同じメニューを呈示しており、減税と規制緩和、民営化、そして退職者などへの社会権に関する支出の完全な欠如などで、大企業を保護します。

## チリにとって焦眉の問題

いずれの候補も、デモの激動の中で、チリ人が要求した、独裁政権後の新憲法の制定など、焦眉の課題に対処しなければなりませんでした。

### 1. コロナ後の困難

他の世界経済と同様に、チリは、インフレ率の上昇など、パンデミック後の困難に直面しています。GDPは、COVIDの影響により2020年に6パーセントポイント縮小しました。100万人の雇用が失われ、貧困レベル以下の層は2019年の8.1%から2021年には12.2%に増加しました。

新大統領が対処しなければならない他の問題として、コロナウイルスのパンデミックと戦うための優れた政策を継続するという課題があります。現在人口の85%が完全にワクチン接種済みです。

### 2. 憲法改正への道程

また、10月の承認を目指して制憲議会をすすめること、および明確な過半数が存在しない国会との調和のとれた関係を確立することなどです。

チリでは、投票は任意です。

（山崎補足：ブラジルの選挙は18歳から70歳までは義務で、その年代の有権者の棄権は罰金が課される）

過去 2 回の重要選挙では、投票率は有権者数の 50%以下でした。今回の選挙は、中央地域では高い気温に見舞われ、投票所周辺では激しい交通渋滞があり、一部の都市では公共交通機関の頻度が低いか、公共交通機関がないことによる、市長や反対者からの質問がありました。

運輸通信大臣のグロリア・ハットは、システムの機能状況について謝罪しました。（Cezar Xavier による）